

大龍勢の飛行、工学解析

藤枝市岡部町殿地区で県指定無形民俗文化財で戦国時代ののろしが起源とされる「朝比奈大龍勢」(同実行委主催)が行われた15日、静岡理工科大(袋井市)と藤枝市、地元保存会が連携して龍勢に小型カメラとセンサーを設置して打ち上げた。龍勢を工学的に分析するため、飛行軌道や姿勢などのデータ収集を行った。＝関連記事26面へ(藤枝支局・名倉正和)

藤枝・岡部

研究の中心となっているのは、同大理工学部機械工学科航空工学コースの増田和三教授。増田教授は龍勢を工学的視点から伝えるため、地元児童らを対象に飛ぶ仕組みなどを紹介する講座を開いた。増田教授は「地元の子どもたちに優れた文化を知ってもらい理科の勉

カメラ搭載、データ収集

強にも役立ててほしいかった」と語る。

この日、小型カメラなどを載せた龍勢は計3本打ち上げた。正午に打ち上げた1本目が上空2300メートルまで上がると、学生が急いで回

静岡理工科大や地元保存会



収に向かい、カメラの映像を早速パソコンでチェックした。

「龍勢の工学的解明」が卒業論文のテーマという伊藤藤成哉さん(同大4年)は「映像は鮮明でしっかりと

データは取れた。このデータから龍勢が安定して打ち上がる技術の要因を探りたい」と語った。同大はデー

タを分析した後、朝比奈地区で11、12月に報告会を開く予定。

龍勢に設置した小型カメラの映像をチェックする関係者
＝藤枝市岡部町殿地区